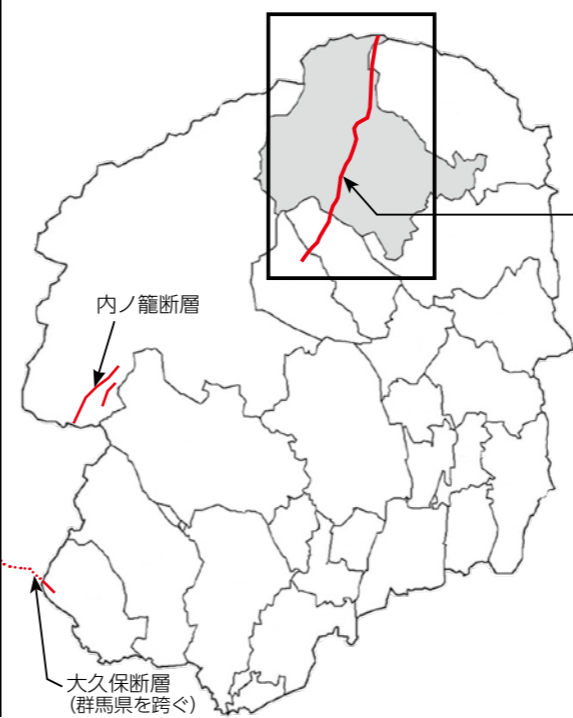


地震

前触れなく襲い掛かる脅威、それが地震。事前の備えなしに被害を抑えることは不可能。地震列島で暮らしていく以上、その対策はかかせません。ここ那須塩原にも熊本のような直下型地震を引き起こす要因となりえる関谷断層帯が走っています。



【関谷断層の一角】 関谷から金沢方面(左奥)にかけてを空撮。関谷断層は写真右側(西側)が左側(東側)に対して隆起している。山沿いを走るその長さは約38km。



関 谷断層は、県北部・那須野が原の西縁に沿って伸びる断層帯(上図)。那須岳北方の福島―栃木県界から塩谷町北東部に至るその長さは、関東圏で最長です。断層とは、地球の表面を覆うプレートの運動によって地殻が破断し、ずれ動いたものこと。その過程で地震が発生します。特に、将来にわたって周期的な活動が確認されている断層のことを「活断層」と呼び、調査が行われています。関谷断層も活断層の一つですが、100年以内の地震発生確率は「ほぼ0%」と評価されています。しかし、栃木県近郊の地震の歴史をさかのぼると、大地震に何度も見舞われています(表1)。日本に住み続ける限り、地震と向き合わなければなりません。

未来の地震を見据えて 防災意識を習慣化しましょう

日本は4つの大きなプレートが干渉し合う複雑な地殻上に存在し、火山活動も非常に活発です。その地理的要因から、2011年東北地方太平洋沖地震のような海溝型地震に加え、1995年兵庫県南部地震のような内陸直下型地震、更には火山性地震も発生する地震大国といえます。まだ見つかっていない活断層も多々あるとされ、全国どこに住んでも一定規模の地震に遭遇する可能性があります。「活断層から家が遠いから安心、近いから危険」と考えるのではなく、今後、遭遇し得る未来の地震に対して、どれだけ備えられるかが重要なポイントです。

皆さんは東北地方太平洋沖地震が襲ってきた瞬間、何をしていましたか。普段から"どんな安全行動をとればいいのか"を意識していないと、強い揺れや緊急地震速報を見聞きしても、とっさに

動けないケースが多いのです。今こうして元気でいられるのは揺れが襲ってきたとき、比較的安全な状況にあったということでしょう。しかし、いつも同じ状況下で地震に遭遇するとは限りません。「今地震が来たら何をするのが最善か」そのときの状況にあわせて瞬時に判断できるよう、防災意識と対応力を高め、習慣化することが非常に大切です。

現在、宇都宮地方気象台では、教育委員会と連携して実践型の防災教育を全県に広める活動を行っています。学校生活中に緊急地震速報を抜き打ちで鳴らし、自分の判断で状況に応じた安全行動がとれるよう意識づけるプログラムです。子どものうちから危機を回避する判断力を養えば、発災時には自助の力で災害による被害を確実に減らすことができると考えます。

INTERVIEW



気象庁 宇都宮地方気象台 地震津波防災官 永田俊光氏

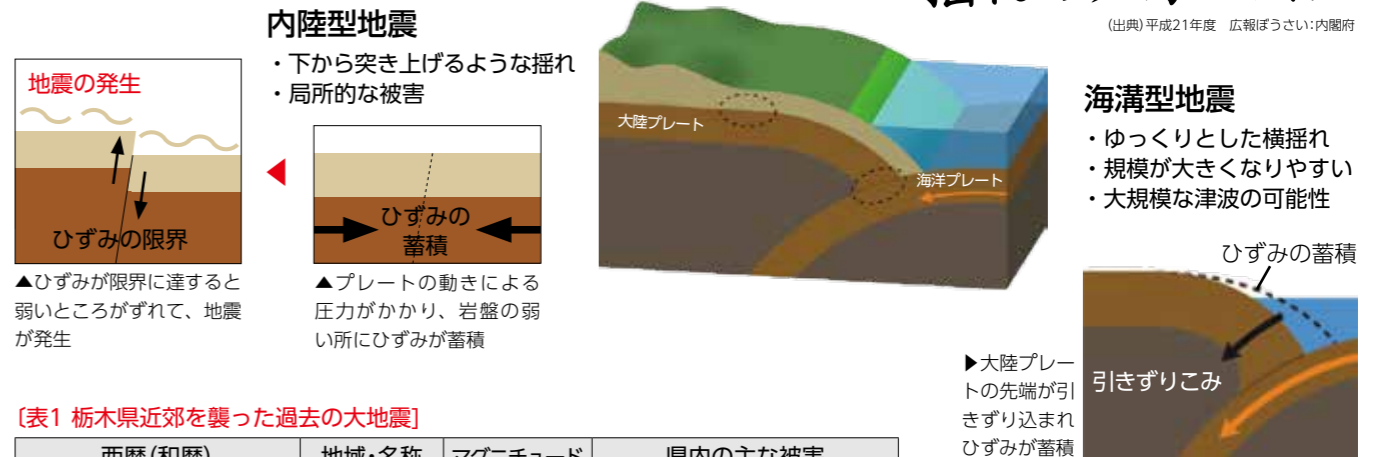
必ず覚えておきたい 命を守るかんたん3アクション ※とっさには意外とできません。



- ①強い揺れで倒れることのないよう、姿勢を低くする。
- ②固定された机やテーブルの下に入り、頭を守る。屋外などで頭を守るものがない場合は、腕や荷物を使い、落下物などの危険がない場所に避難する。
- ③揺れがおさまるまで静止(約1分間)。

揺れのメカニズム

(出典)平成21年度 広報ぼうさい:内閣府



【表1 栃木県近郊を襲った過去の大地震】

西暦(和暦)	地域・名称	マグニチュード	県内の主な被害
818年(弘仁9)	関東諸国	7.5以上	相模、武蔵、下総、常陸、上野、下野などで被害。圧死者多数
1659年4月21日(万治2)	岩代・下野	6.6~7.0	塩原温泉一村(約80戸)のほとんどが土砂に埋まり、死者多数
1923年9月1日(大正12)	関東地震	7.9	住家全壊16棟
1949年12月26日(昭和24)	今市地震	6.2(8時17分) 6.4(8時25分)	今市を中心に被害。死者10人、負傷者163人、住家全壊290棟
2011年3月11日(平成23)	東北地方太平洋沖地震	9.0	死者4人、負傷者133人、建物全壊261戸、建物半壊2,118戸 ^{※2}

※1 関谷断層の長期評価(一部改訂):27.4.24 地震調査委員会

※2 平成28年3月10日現在、警察庁調べ

生死を分ける 事前の備え

6434人の死者を出す大災害となった阪神・淡路大震災。その死因の8割が建物や家具などの倒壊に伴う圧死・窒息死でした。日常で当たり前のように存在する身の回りの物が、地震によって凶器になるのです。地震は、避難行動をとる間もなく襲ってきます。だからこそ、事前の対策が重要なのです。

1人の意識が人命の救助に

被災現場は混乱に包まれます。停電によって信号が止まり、倒壊した建物が道を塞ぐ



地震対策をしない家具は非常に危険です。揺れに備えて転倒、移動、開閉対策を。(阪神・淡路大震災で倒れた家具)

自宅の耐震性 足りていますか

耐震アドバイザーが皆さんの自宅を訪問し、耐震診断・改修に関する相談に無料で応じます。

- ▶対象物件
○2階建て以下の一戸建て木造住宅
※併用住宅は住宅部分の床面積が2分の1以上。
- 貸家でないこと
- 着工が昭和56年5月31日以前

その他、木造住宅の耐震診断・改修費用の助成も行っています。

詳しくは...
那須塩原 耐震 検索

▶問い合わせ 建築指導課 ☎0287(62)7169